

# しのはらの風 20-8号

小淵沢町篠原区情報紙  
発行人; 区長 松井 皎  
編集; 藤代 富美男

## <考えよう「篠原区のあるべき組織と運営」について>

先月のこの欄に「いま、区の変革は道半ば」と書きました。北杜市になる前といまの区と分館の組織・運営の変化について、議案書より比較表を作り役員会に提出しました。

例えば、町時代の「衛生」は市になると業務が二分化されました。が、分離された一方の業務は実質的に廃止。また 10 名近くが利用していた福祉部担当の「給食サービス」は、利用条件がきびしくなって 1 名に激減（その後 1 名増加して 2 名に）。その分、専門部活動は軽減されたともいえます。

区は、区や分館活動の無理・無駄を是正し、区民ボランティアの参加をもらいながら活気ある区を実現したい。それには状況変化に柔軟に対応することが大切です。そのひとつが組から選出される環境委員と福祉委員の 2 名の役割のあり方だと考えます。このことは区の役員会に議案として提出しており、近々会議で話し合います。区民の皆様のご意見も反映できたらと思いますので組の会合等で話しあう機会を持ってください。

(区長 松井 皎)

## <クリスマス会が行われました>

12 月 6 日（土）に公民館でチョット早いおとなのクリスマス会が開かれました。長寿者クラブを中心にして 30 名ほどの人が集まりました。この日の催しは福祉部の主催で市の食生活改善推進委員の皆さんも協力していただきました。おいしいお弁当や食生活改善推進委員の皆さんの手作りデザート、差し入れのクッキーと楽しいお昼を頂きました。参加を考えて結局見送った人は失敗したかもしれませんね。来年はどうぞ参加してください。

くんぺい童話館の東英子さんのお話や牧師の山本さんのチェロの演奏がありました。皆さん静かに耳を傾けて穏やかなひと時を過ごしました。

そして一転、賑やかにビンゴゲームです。参加した全員に景品が当るのですがどういう訳か一人ずつのカードの審査が厳密で時間がかかっていました。やはり人生経験豊富な長寿者クラブのメンバーは何事にもいい加減や妥協は許さないという姿勢が感じ取れますね。もっともナンバー球が出ると読み上げる前に自分のビンゴカードを確認したりしていて、会場から「自分のはいいから早く読め！」なんて野次が飛んだりしてかなりいい加減といえいい加減であったかも。この辺の味というかみんなで許しあうという寛容さというか、まったりとした雰囲気は若い者では出せませんよ。楽しいビンゴでした。

御協力いただいた皆さんありがとうございました。ご参加の皆さんお疲れ様でした。

### <元旦祭に出よう>

毎年1月1日は元旦祭が行われます。篠原神社で神主さんをお迎えして区内のお歴々や大人たちと子供達も集って新年を祝います。10時から始まり最初の30分ほどは厳粛に神事が執り行われます。そのあとは神主さんを交えて直会（なおり）を行います。お神酒をいただき迎えた新年の抱負などを話したりします。子供達にはお菓子が配られます。年によっては雪の降る日もあり、屋外の寒い場所で行われますので防寒着を着込んで参加してみてください。

ピリッと引き締まった新年になること請け合いです。

### <「どんど焼き」と「まゆ玉作り」があります>

1月18日（日）はお正月行事第2弾の「どんど焼き」があります。「どんど焼き」とは小正月に行われる火祭りのことで、木や竹で櫓を組み藁や木の枝等を詰めて勢いよく燃やし、そこに正月飾りや門松、破魔矢、だるま等を投じて燃やしたり、書初めを燃やして上達を祈ったりします。火の勢いが弱まってきたら餅を木の枝につけて焼いて子供達に振舞います。これが「まゆ玉」です。昔から神事として行われてきましたが最近では町内会や自治会の行事として行われることが多いようです。我が篠原区でも区の行事として以前から行われています。当日は育成部の主催で「おでん」や甘酒などが振舞われます。皆さんどうぞおいでください。

1週間前の1月11日（日）に櫓組みを行います。結構大変な作業です。例年多くの人に応援してもらって作り上げます。区の結束力が問われるところですね。皆さん是非応援してください。場所は「和食処高岡」さんの斜向かいの分校跡地です。櫓組みは9時ころから始めます。

「まゆ玉」は当日（18日）の朝から公民館で子供クラブの有志とベテランのお母さん達で作ります。皆さんどしどし参加してくださいね。

### <篠原区の現況をお知らせします（11月30日現在北杜市集計による）>

	世帯数	男	女	計
第1組	27	35	38	73
第2組	15	16	19	35
第3組	24	31	32	63
第4組	41	48	60	108
第5組	20	25	28	53
未加入	170	142	171	313
計	297	297	348	645
区加入率	42.76%			

\*別荘区民は含みません。

## <区の現況から>

表でお分りの通り篠原区への加入率は50%を割っています。これは役場での集計です。ですので篠原地域に住民登録をしている世帯の全部です。

都市の雑踏や人との接触を嫌ってこの地に来たのだから、自治会などには加わりたくないという意見もあるようです。その考えは個人の自由ではありますが、やはり前号でも一部触れましたが住民の負担すべきもの、享受する環境等は公平でなくてはならないと思います。その地に住むためには最低限なくてはならないことがあるのです。

砂利道の補修を区民の負担で行っていることを未加入の人達は知っているのでしょうか。その道を未加入者は歩かないのでしょうか。夜間、防犯灯が灯って歩く足元を照らしている電気代は区民の費用だということを知っているのでしょうか。

この地はなんでも行政がしてくれる都市部ではないのです。篠原に住むためには自分達でしなければならないことが沢山あるのです。

区では未加入者に対応するための方策を検討していきます。そして具体的に行動に移します。内容は固まり次第に皆さまにお知らせします。総会の議決が必要なものは総会に提議します。皆さまの御協力をお願いします。

## <身近ないい所>

「八反歩堰」を知っていますか。

篠原から身曾岐神社を下って更に中央線を越えると三峰の丘があります。「三峰の丘」とは富士山・北岳・奥穂高岳の日本3高峰が見える丘ということのようです。

そこの駐車場に車を止めて少し下ると右に「八反歩堰」と書いた看板があり遊歩道になっています。大滝湧水からの流れに沿って歩いていくと遊歩道の左に雄大な眺めが広がります。すぐ下には上笹尾区の新井、根造の集落があり、釜無川に向かって裾を拡げるように降りながら大地が続きます。

そして膨大な大気を抱え込むように南アルプスが目の前にせり上がります。足を止めて首をめぐらしてみていると何か両手を大きく広げて羽ばたきたいような気分させてくれる景色です。

流れている湧水はあくまでも清く水音も爽やかです。片道1km弱の楽しい散歩道です。一度出かけてみては如何でしょうか。

## <お願い>

「しのはらの風」をいつもご愛読いただきましてありがとうございます。これからも区内情報の伝達や話題の提供に努めたいと思います。ところで編集者も無い知恵を絞って紙面を作っていますがネタ切れになりそうです。皆さまからの情報の提供をお願いします。なんでも結構です。連絡は下記をお願いします。

電話；36-3483（藤代） e-mail: fujideco\_darimekuravanira2007@yahoo.co.jp

「開拓の思い出」今回は「八、開墾と分散」です。開拓入植でもっとも苦勞するところ  
です。鍬に絡まる木や草の根、石ころ等泣くにならない思いをしたことでしょう。

分散では今の篠原の原型が形作られた経緯がよくわかります。(文字・句読点等そのまま)

「開拓の思い出」

八、開墾と分散

志村 卓爾

来る日も来る日も開墾の連続で当時開墾鍬と云う扇子型の鍬で一鍬一鍬掘り起こし  
一日に三十坪がやっとで石ころ等の多い所では、道具の破損が多く大変な仕事であつた  
が、食糧増産と生活の安定と云う目的に向かつて一生懸命だった。耕地は当時、甲府四  
十九連隊(東部六十三部隊)の増産隊の兵隊さんが和牛の飼育と食糧増産に励んでいて  
馬鈴薯、トウモロコシ、野菜等を耕作していた。耕地が点在していて他の耕地は全部赤  
松林に雑木の混合林で立木は業者が伐採し、開墾した耕地は伐採した木かぶと木かぶの  
間を掘り起こして作付けする。機械など無く又使用できず、木かぶが取れるには、約四  
年ぐらいかかる、それでも目的の九十町歩開墾を完了した。其の努力と困難は実際に開  
墾した者でなければ知ることが出来ない。苦勞と食料不足のうえ開墾していても、十一  
時頃になると腹ペコで鍬が持ちあがらない有様。固い御飯など無く野山草に米が少々と  
云った食事が毎日で配給が少なく、当時特に生活が苦しかった家族の方は子供八人で一  
家十人、家族の人数の多かった方々の苦勞は筆舌に尽くし難い。収入源は開墾補助金と  
開墾の出来ない期間の日雇出稼ぎで生活して、春から秋迄では開墾、作付管理等で細々  
の生活、苦難の生活の連続で長い長い期間だった。その外県開拓課への連絡、事務打ち  
合わせ補助金の受領、貸付金受領、返済金等の取扱複雑な事務処理、組合での請負事業  
の処理、組合運営も大変なことが多かった。当時貢川にあった県農業試験場に大豆の根  
瘤菌の受領に、又石和の開拓基地農場(現在の場外馬券場)へ鶏のヒナ、野菜苗等の配  
布を受領に行った事も度々あり昨日のように思われる。開墾も進み小海線上の第三地区  
の上に耕地があり耕作も遠地で重労働のため分散計画を立て小海線上の耕地へ移転分  
散すべく土地の交換を旧秋田村交渉に通って度々坐り込みも何回か、繰り返す。当時、  
清水三郎村長さんにも区長さん達にも御願いに廻る。約一年ぐらい交渉も難航その結果  
やっとのことで、八ッ原組合の大半の方々が分散移転が出来る。女取組合の方も線路上  
に移転分散計画も予定通り終わる。八原組合より小海線上に分散した方々 小林光 小  
野政喜 及川善太郎 岩下義広 佐野常次郎 広原繁治 田中泰治 日向国一 青柳  
栄枝 三枝政夫 窪川清 名倉常次郎 堀内宗次郎 窪川昭一 代永義雄 松村直彦  
大古勇 阿南定利 日向慶太郎 中込賢三。戊辰原地区への移転者 和光徳重 女取組  
合より小海線上へ分散した方々 志村卓爾、 保坂円治さんの補充入植者は 板山義  
光、有泉馨さんの補充入植者は 有泉巳代子、女取組合より小海線下で西耕地へ分散の  
方 柴岡義憲 中矢義一 原川順雄 若林光重 板垣芳雄 一度分校の西耕地へ分散  
した方 上田義昭 平田耕平 志村卓爾。